

社 会 科 授 業 案

授業者 岩本 知之

1 日時 平成21年11月 6日(金) 11:00~11:50

2 学級 3年C組(男子20名,女子20名,計40名)

3 単元名 公民的分野(3) 私たちと政治 イ 民主政治と政治参加 ~裁判員制度~

4 単元目標

- ・ランキングやKJ法, ロールプレイングなどの参加型学習の手法を通して主体的に教材と関わりながら, 司法や裁判員制度について関心を高め, 意欲的に追究できる。(関心・意欲)
- ・司法や裁判員制度について, 法廷の変遷の学習や裁判のしくみや機能の学習, 模擬裁判員裁判を通して多面的・多角的に考察し, 裁判員制度について自分なりの見方・考え方をもつことができる。(思考・判断)
- ・資料から紛争を解決するに必要な事柄を見いだしたり, 法廷図を見比べて変化を読み取ったり, 模擬裁判員裁判の資料から評決の根拠となる事象を探し, 話し合いに有効に生かすなど, 様々な資料を活用することができる。(資料活用の技能・表現)
- ・法的な見方や考え方, 司法や裁判員制度について, 多面的・多角的に理解を深めることができる。(知識・理解)

5 単元について

(1) 新学習指導要領の要点と今回の授業について

新学習指導要領では, 社会科, 地理歴史科, 公民科の改善の3つの基本方針として

社会事象に関心をもって多面的・多角的に考察し, 公正に判断する能力と態度を養い, 社会的な見方や考え方を成長させることを一層重視する方向で改善を図る。

社会事象に関する基礎的・基本的な知識, 概念や技能を確実に習得させ, それらを活用する力や課題を探究する力を育成する観点から, 各学校段階の特質に応じて, 次のことを一層重視する方向で改善を図る。

- ・習得すべき知識, 概念の明確化を図ること
- ・コンピューターなどを活用すること
- ・地図や統計など各種の資料から必要な情報を集めて読み取ること
- ・社会事象の意味, 意義を解釈すること
- ・事象の特色や事象間の関連を説明すること
- ・自分の考えを論述すること

我が国の国土や歴史に対する愛情をはぐくみ, 日本人としての自覚をもって国際社会で主体的に生きるとともに, 持続可能な社会の実現を目指すなど, 公共的な事柄に自ら参画していく資質や能力を育成することを重視する方向で改善を図る

を掲げている。

これらを受け, 中学校社会科の改訂に当たっての基本的な方針及び要点として

基礎的・基本的な知識, 概念や技能の習得
言語活動の充実
社会参画, 伝統や文化, 宗教に関する学習の充実

が示されている。

それぞれを公民分野で考えると、

基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得については、

- ・現代社会の理解を一層深める
- ・物事の決定の仕方やきまりの意義について考える
- ・現代社会の見方や考え方

言語活動の充実については、

- ・習得した知識、概念や技能を活用して、社会事象について考えたことを説明したり、自分の考えをまとめて論述したり、議論などを通して考えたりすることを重視

社会参画、伝統や文化、宗教に関する学習の充実については、

- ・文化の継承と創造の意義に気づく
- ・国際社会における文化や宗教の多様性
- ・持続可能な社会を形成するという観点から、社会的な課題を追究し自分の考えをまとめる学習

という部分が重要になりそうである。

そして、公民分野の改訂の要点は、次の5点である。

ア 現代社会の特色や現代社会における文化の意義や影響に関する学習の重視

イ 現代社会をとらえる見方や考え方の基礎を養う学習

ウ 現代社会をとらえる見方や考え方の基礎を生かした内容構成

エ 社会の変化に対応した法や金融などに関する学習の重視

オ 課題の探求を通して社会の形成に参画する態度を養うことの重視

「エ 社会の変化に対応した法や金融などに関する学習の重視」が本単元と大きく関わる部分であり、

内容の(3)の「イ 民主政治と政治参加」では、裁判員制度についても触れることとした。

と表記されている。

更に、本単元と関わる新学習指導要領における司法についての記述は、次のとおりである。

イ 民主政治と政治参加

…さらに、国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解させるとともに、…

(内容の取扱い)

(イ)「法に基づく公正な裁判の保障」に関連させて、裁判員制度についても触れること。

(解説)

「国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解させる」については、法に基づく公正な裁判によって国民の権利が守られ、社会の秩序が維持されていること、そのため、司法権の独立と法による裁判が憲法で保障されていることについて理解させることを意味している。その際、抽象的な理解にならないように、裁判官、検察官、弁護士などの具体的な働きを通して理解させるなどの工夫が大切である。

また、「裁判員制度についても触れ」(内容の取扱い)ながら国民の司法参加の意義について考えさせ、国民が刑事裁判に参加することによって、裁判の内容に国民の視点、感覚が反映されることになり、司法に対する国民の理解が深まり、その信頼が高まることを期待して裁判員制度が導入されたことに気づかせることが大切である。

今回の研究発表会において、「(3) 私たちと政治 イ 民主政治と政治参加 ～裁判員制度～」を扱いたいと考えている。今、国民の大きな関心事の裁判員制度を題材とした単元を構成するにおいて、裁判員裁判をどう扱うかが、生徒に身につけさせたい力と大きく関わると考えている。

本単元は、まず、裁判の種類やしきみなどの司法の学習を、参加型学習の手法を取り入れながら行う。そして、その中で身につけた知識や概念への理解と法的な見方・考え方を基盤としながら、模擬裁判員裁判を行う。その中で、裁判員制度への自分なりの見方を持ち、深める授業になるよう構成した。

これまで私自身が行ってきた司法の単元の授業は、裁判の種類やしきみなどの司法の学習を行った後、なんとなく模擬裁判を行う授業であった。そのような授業よりも、単元の前半部分で参加型学習の手法で獲得してきた「司法の知識や概念への理解」や「法的な見方・考え方」、「裁判員制度の知識」を踏まえて、模擬裁判員裁判を体験する流れの授業は、身につけた力や知識を実際に活用する中で、多面的・多角的に物事を見る力や判断する力がより育つと考えている。また、模擬裁判員裁判に切実感をもって取り組むことができるであろう。そして、その過程は、生徒が内面的にもつと予想される「どうして国民が裁判に参加するのだろうか」「裁判員制度はよい制度なのだろうか」という問いを追究していく流れにもなると考える。

また、意図的に「ランキング」「KJ法」「ロールプレイング」という参加型学習の手法を取り入れているのは、他者との関わりの中で考えを深めたり、新しい視点から物事を見る力や合意形成能力を身につけることをねらいとしている。

これらの試みは、改善の基本方針や改訂に当たっての基本的な方針及び要点にある「社会事象に関心をもって多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を養い、社会的な見方や考え方を成長させる」「社会事象に関する基礎的・基本的な知識、概念や技能を確実に習得させ、それらを活用する力や課題を探究する力を育成する」「公共的な事柄に自ら参画していく資質や能力を育成することを重視する」という部分を踏まえたものであると考えている。

(2) 「イ 民主政治と政治参加 ～裁判員制度～」の学習について

司法と法的な見方・考え方の学習

本単元では司法への理解と法的な見方・考え方の理解を基盤にしている。

司法への理解は、

- ア 法廷の変遷から読み取った「裁判官」「検察官」「弁護士」などの具体的な働き
- イ それらを裁判において重要だと考える順にランキングする中で明確になる「公正な裁判が行われる」「人権が守られる」「法の下に行われる」などの「裁判において大切なこと」
- ウ 事件カードを分類する中で理解を深める「刑事裁判・民事裁判のしくみや違い」や「三審制」、「裁判員裁判への理解」などがある。

法的な見方・考え方の理解は、

- ア 紛争を解決する活動を通して認識する「いきなり裁判ではなく 当事者同士による解決 公平な第三者による解決 国家権力による解決（裁判）の流れがあること」
- イ 事件カードを裁判で解決できるもの・裁判で解決できないもの・どちらか決めかねるものに分類する中で気づく「裁判による法の解決は私たちを助けてくれる反面、いきすぎると自分たちの生活をしばるものでもある」という認識
- ウ 模擬裁判員裁判で学ぶ「裁判は適正な手続きのもとで解決を図る」という理解や模擬裁判員裁判で感じる「人を、罪を裁くことへの自分なりの想いや考え」などがある。

また、それらを通して「紛争を解決するためには両者の言い分をよく聞き、互いに納得する方法をとることが大切」などの考えから「自分たちで解決する能力」や「紛争に巻き込まれない能力」が身に付くことも期待される。

授業者がとらえる裁判員制度

戦後、日本の社会が大きく変わり、司法に置いても「事前規制型社会から事後チェック・救済型の社会」「国際化」などへの対応が必要となった。また、「法曹（裁判官、検察官と弁護士）の数が足りない」「裁判に時間がかかりすぎる」などの問題点も指摘されるようになった。その声に応えるべく、21世紀の日本の社会を支える、司法制度改革『国民の期待に応える司法制度の構造（法律相談窓口での対応等の充実） 司法制度を支える法曹の在り方の改革（法科大学院など法曹人

口の増加) 国民的基盤の確立・国民の司法参加(国民参加の「裁判員制度」の導入)』が進められている。

そのような中、平成21年8月3日に全国で初めて、国民の司法参加の制度である裁判員裁判が東京地方裁判所で行われた。国民が殺人や強盗致死傷などの一定の重大事件の裁判の審理に参加し、裁判官とともに被告人が有罪か無罪か、有罪である場合にはどのような刑にするかを話し合い(評議)、決定していく(評決)こととなった。メディアでも大きく取り上げられ、国民の関心は否応なしに高まりを見せている。

制度は「法についての知識が無い国民が裁けるのか」といった不安や参加意識の低さを嘆く声もある中スタートした。初の試みを振り返る裁判後の裁判員の記者会見では、刑を決めて言い渡すことの心理的負担については「つらい・大変」という疲労を感じる感想や「貴重な経験・両方の言い分を聞くことが大切だということがわかった」という今後に繋がる発展的な感想があった。裁判の手続きはわかりやすさについては一様に「わかりやすかった」という好印象であった。そして、これから裁判員になる人へのメッセージとして「一生に一回の経験で、今まで見えないことも見えてきた。最初は大変だと思うが、いい経験になると思って頑張りたい」「日本人は昔からお上に弱い、裁判に市民の声を反映させるという制度ができた。最初はなぜ自分が、と思ったが、4日間で考えが変わった。個人が集まって社会ができている、と意識するようになった。社会を住みやすくするために何ができるのか考えられれば、制度は発展していく」と述べた裁判員がいた。裁判員制度は守秘義務の存在や裁判員の構成・適用する裁判の再考など、今後検討すべきと考えられる点はあるものの、変化を求められている司法制度にとって意味があるものであり、私たちが、自らを取り巻く社会の問題についても考え、問題を共有する意識をもつ市民になる素地を作りあげることが期待できる制度と言えるだろう。

裁判員制度への知識・理解

本単元を通して「裁判員の人数」「裁判員裁判の法廷の様子」「刑事事件の第一審に参加すること」「裁判員の役割」「裁判 評議・評決 判決の流れ」「裁判が分かりやすくなったこと」「裁判員は質問ができること」「無罪推定など法的な知識」「裁判員の気持ち」などの裁判員制度への知識・理解が深まると考えられる。これらの知識・理解を習得することが目的ではなく、「これらの知識・理解と司法への理解 法的な見方・考え方を持って主体的に模擬裁判員裁判を行うこと」「これらの知識を生かして裁判員制度について自分なりの見方・考え方をもち、深めること」が目的である。

裁判員制度についての自分なりの見方・考え方をもち、深める

裁判員制度の意義については〔裁判員の参加する刑事裁判に関する法律 第1条〕に「この法律は、国民の中から選任された裁判員が裁判官と共に刑事訴訟手続きに参与することが司法に対する国民の理解の増進とその信頼の向上に資することにかんがみ、裁判員の参加する刑事裁判に関し…」と書かれている。それを受け、新学習指導要領や最高裁判所の刊行物などには、「裁判員制度が導入されることにより裁判の内容に国民の視点、感覚が反映され、司法に対する国民の理解が深まり、信頼が高まることが期待されている」とある。そして、新学習指導要領には「意義に気づかせることが大切である」と明記されている。

全ての生徒が裁判員制度の存在自体は知っているが、制度への見方・考え方は、世の中と同じように様々である。また、それは、メディアを通して流れてくる情報の一部を鵜呑みにしたり、自分なりに解釈したものである。

本単元で、「司法の知識や概念への理解」や「裁判員制度への知識・理解」、「法的な見方・考え方を身につけて、模擬裁判員裁判を体験することにより、裁判員制度についての実感のある自分なりの見方・考え方をもち、深めることができるようになる」と考えられる。

そして、それらは、裁判員経験者の生の声にある「社会を住みやすくするために何ができるのか考える機会になる」「自分も社会の形成者の一員である」という主体的に社会と関わろうとする意識を喚起するものであり、更には、例えば「日常の中で起こる小さな紛争などを自分たちで解決していく」や「ルールの大切さを理解しながら生活する」というような主体的な態度につながる可能性もあるものだと考える。

(3) 参加型学習の手法の利用について

本単元において、裁判の種類やしぐみをわかりやすく理解するしたり、裁判において大切なことに気づいたり、評議の際に思考を整理するために「ランキング」、裁判の種類やしぐみを理解したり、法的な見方・考え方に気づくために「カードを活用したKJ法」、評議の際に思考を整理したり他者の考えとの比較をわかりやすくするための「KJ法」、紛争のあらましをわかりやすくつかんだり、裁判員裁判を体験的に理解するための「ロールプレイング」、という参加型学習の手法を取り入れた。参加型学習の手法は、取り入れる目的によっていくつかの効果を発揮する。今回は、主に次の四つの効果をねらっている。

1つ目は、単に知識を享受するのではなく、活用しながら知識を定着させる効果である。説明を聞きながら板書されたことをノートに写すだけではない。課題を解決するために考えながら、または、説明するために声に出しながら、知識を獲得できると考えている。今回の単元では、裁判の種類やしぐみを理解するために事件をカード化したものを分類する活動を行っている。

2つ目は、合意形成がわかりやすく行われ、活発になる効果である。KJ法では、付箋紙などに書き出された事象を見ながら、まとめたり分類する。ランキングでは、ランキングをつけた理由を自分の意見の根拠として伝える。このような過程は、合意形成の場で意見をたくさん出し合ったり、話し合いの内容をわかりやすく伝えたり、お互いの理解を深めることにつながると考えている。今回の単元では、模擬裁判員裁判の評議の中で証拠を整理したり、事象を多面的・多角的に考察するためにKJ法を行っている。

3つ目は、生徒の活動を通して、気づきが生まれることである。今回の単元では、裁判において大切なことに気づくことをねらいとして、現代の法廷の図と江戸時代・明治初期の白州体制の図を比較して気づいた変化を「裁判において重要だと考えられる順」という視点でランキングしている。

4つ目は、体験型の学習ができることである。紛争を解決や模擬裁判員裁判のロールプレイを行い、紛争の当事者、裁判員や被告人など、実際に紛争や裁判に関係する人の気持ちを感じることができる。そうすることで、切実感がある考えをもてるだろう。

(4) 研究テーマと単元の関わり

社会生活において必要となる力の育成 ～生徒に必要な「市民的資質」をどうとらえ、どう育てるか～

一昨年度より、研究主題を上記のものに変更し、研究を進め、本年度で3年度を迎えた。本校の研究のスタイルである「各教科の今日的な課題へのアプローチ」を受けて、社会科では「社会生活において必要となる力の育成～生徒に必要な「市民的資質」をどうとらえ、どう育てるか～」について、研究していくことが、様々な社会科教育における今日的課題に取り組むための手がかりになると考えている。一昨年度、社会科教育には次のような今日的課題があると考えた。

PISA型「読解力」の向上に向けた社会科としての取組

改正教育基本法の理念を実現し、新しい学習指導要領に対応した授業実践

教科書を終えることで手一杯な現状の打開策

社会事象への関心度の低下に歯止めをかける取組

昨年度は、上記のような問題意識を軸に「社会人となった生徒の将来像」を具体的に設定した。様々な立場から様々な社会的課題（事象）に対して「関心・資料活用・考察・他社理解・表現」といった技能や態度を活用したり、意識したりして、「認識」「思考」「意思表示」の過程を経て、とらえることのできる社会人になって欲しいと考えた。単純な一面的なものの見方から安易に社会的課題（事象）をとらえるのではなく、様々なメディアを適切に活用し、批判的にとらえたり、自分とは異なる意見にも耳を傾けたりすることを通じて、その社会的課題（事象）がもつ多面性を多角的にとらえることが大切であり、それらを何らかの形で表現することが大切である、と押さえた。

こうした点を踏まえ、今回の「(3) 私たちと政治 イ 民主政治と政治参加 ～裁判員制度～」の学習においては、次の点を考慮した単元計画を設定したいと考えている。

関心

学習内容との出会いを魅力あるものとするための工夫を通じて、生徒の興味関心を高める。
参加型の学習を中核に据え、生徒の興味関心を高められるような学習活動を設定する。

資料活用

写真や説明文、グラフ、図表などの読み取りを学習活動の中に意図的に配置し、適切に読み取ったり、加工したりするスキルを高める。

考察

生徒の思考過程を踏まえた学習過程の設定を通じて、「どうしてだろう?」「それがどのようなにつながったのだろうか?」といった社会事象のつながりを意識した学習に留意する。

他者理解

小集団での活動を意図的に組み込み、自分の考えとは異なる考えに触れ、自分の考えを再構成したり、小集団としての考えをまとめたりする場面を設定する。

表現

挙手で発表するだけでなく、レポートやホワイトボード、図表など様々な表現方法を用いて、調べたことや自分の考えを表現する場面を設定する。

まだ、不十分な点については、今後の課題である。

6 単元計画（6 時間）

1 時	紛争を解決しよう
(内容と目標) マスオさんとアナゴさんのけんかを解決する活動を通して、言い分の違う当事者同士を解決する過程や解決する難しさを体感する中で、法的な見方・考え方を身につけながら、これからの学習への関心を高めるとともに、民事裁判について理解する。	
2 時	法廷図の変化と裁判の概念（本時）
(内容と目標) 江戸時代の「白州体制」と呼ばれる法廷の図と比べると、「現代の法廷」はどのような箇所が変化しているのかという課題を多面的・多角的に考察し、変化した箇所を「裁判において重要だと考える順」にランキングする活動を通して、裁判において大切なことに気づく。その後、裁判員制度がランキングのどこに入るかを考えることで、裁判員制度への理解や想いを深める。	
3 時	裁判員制度で国民が参加する裁判とは？
(内容と目標) 事件をカード化したものを、「裁判で解決できるもの」と「裁判で解決できないもの」「どちらか決めかねるもの」に分類する活動を通して、裁判による法の解釈は私たちを助けてくれる反面、いきすぎると自分たちの生活をしばるものでもあるというような法的な見方・考え方を養いたい。更に、「裁判で解決できるもの」を「民事裁判」と「刑事裁判」に分類し、行政裁判や1つの出来事が民事裁判にも刑事裁判にも関わっている場合があることも含め、裁判の種類を理解する。その後、裁判員制度では、国民は刑事事件の第一審に参加することや裁判員の役割を説明し、裁判員裁判に対する自分の考えをもつ。	
4・5 時	模擬裁判員裁判
(内容と目標) 裁判員制度を理解しながら模擬裁判員裁判を行う中で、証拠の整理や他者との討論から、事象を多面的・多角的に考察し、総合して公正に判断し、その事実に基づいて自分の考えを適切に表現する。そして、その過程や、自分の演じた立場から、裁判員制度への自分の見方・考え方を	

を深める。

6 時	裁判員制度への見方・考え方を深めよう。
-----	---------------------

（内容と目標）

これまでの裁判員制度への自分の見方・考え方を伝え合ったり，世の中の裁判員制度への見方・考え方を知ることを通して，裁判員制度への見方・考え方を深める。

7 本時について

（１）教材名

第２時 「法廷図の変化から読み取る裁判の変化と概念」

（２）本時の目標

白州体制と現代の法廷の変化した箇所を「裁判において重要だと考える順」にランキングする活動を通して，裁判において大切なことを多面的・多角的に考察するとともに，更に変化する法廷図から裁判員制度への関心を高める。

（３）授業構想

初めに，前時の学習内容を生かして，ケンカのロールプレイを解決する段階を確認する中で，裁判があることを確認する。その後，「裁判の様子を見てみよう」と生徒に投げかけ，遠山の金さんが罪人を裁いている様子をVTRで流す。本時への関心を高めるとともに，「白州体制図」や写真から，江戸時代に行われていた「白州体制」では，現代とは全く違う形態で裁判が行われていた事実を生徒に認識させたい。

次に，「現代の法廷図」を提示する。生徒は「白州体制に比べると現代の法廷は大きく変わった」という印象をもつと考えられる。そこで，「白州体制」と比べ「現代の法廷」の変化している箇所を〔新たに加わったもの〕〔呼び名が変わったもの〕〔無くなったもの〕という視点で引き出す。「弁護士が存在」「検察官の存在」「裁判官の存在」「傍聴席の設営」「証言台の設営」「司法修習生の存在」「拷問の廃止」「法廷の場が砂利ではなくなった」などが挙げられると考えられる。

そして，それらの事柄を「公正な裁判を行う」「人権を守る」「法の下に行われる」といった裁判において大切なことへの理解と，弁護士や検察官や裁判官など，裁判に関わる事柄への理解を深める目的で「裁判において重要だと考える順」という視点で小集団でランキングを行う。本来ならば，個人から小集団への活動が望ましいが，本時は時間の関係上初めから小集団で行う。

その後，ランキングをつける理由となったものが裁判において大切なことであることを確認し，最後に，現代の法廷図に裁判員が加わることで裁判員として裁判に参加するまでの過程を説明し，「裁判員」を先ほどのランキングに入れるとするならばどこに入るかを考えさせ，裁判員制度への理解や想いを深めて次時へつなげたい。

(4) 授業過程

(1) 教材名 法廷図の変化と裁判の概念

(2) 本時の内容と目標

白州体制と現代の法廷の変化した箇所を「裁判において重要だと考える順」にランキングする活動を通して、裁判に関わる人たちの働きを理解しながら、裁判において大切なことを多面的・多角的に考察するとともに、更に変化する法廷図から裁判員制度への関心を高める。

(3) 授業過程

生徒の活動	支援及び留意点	
<p>(1) 紛争を解決する流れを確認しましょう。</p> <p>(2) 裁判の法廷の様子を見てみましょう。 ・白州体制図と現代の法廷図を理解する。</p> <p>(3) 「白州体制」と「現代の法廷」の変化を見てみましょう。 〔新たに加わったもの〕 ・弁護人 (A) ・証言台 (B) ・傍聴席 (C) ・司法修習生 ・裁判官の人数 (D) ・裁判官の役割 (E) 〔役割や呼び名が変わったもの〕 ・役人が検察官 (F) でいいのかな。 ・罪人が被告人でいいかな。 ・書記官 〔無くなったもの〕 ・拷問所廃止 (G) ・砂利廃止</p> <p>(4) (A) ~ (G) を「裁判において重要だと考える順」にランキングしてみよう。 ・裁判官が検察官と弁護人の主張を聞いて判断するから、法の下に公正な裁判が行われる為に重要だと思う。 ・被告人の人権を守るから、弁護人が登場したことは重要だと思う。 ・検察官がいることは、秩序ある社会をつくったり、罪を犯してしまった人を反省させることにつながるから重要だと思う。</p> <p>(5) 今年から現代の法廷に更なる変化がありました。 ・裁判員が加わった。 ・大きなディスプレイが設置された。 ・被害者の関係者が証言することもある。</p> <p>(6) 裁判員をランキングに入れるとするならばどこに入るだろうか。</p>	<p>前時の振り返り、 当事者同士の解決 公平な第三者による解決 国家権力による解決 (民事 ・刑事裁判)</p> <p>・「遠山の金さん」の V T R , 法廷図と写真で白州体制図 と現代の法廷図について理 解する。</p> <p>・変化した理由にはあまり深 く入り込まない。</p> <p>・裁判官と奉行の違いに関し ては、役割と人数に着目す る。</p> <p>・時間を見ながらも、なるべく 多くの変化を出したい。</p> <p>・それぞれの働きや変化した 理由を考えながらランキン グをすることを伝える。</p> <p>・ランキングの理由から「公正 な裁判」「人権が守られる」 「間違いの無い裁判」「法の下 に裁判が行われる」など、裁 判において大切なことを多 面的・多角的に考察させたい。</p> <p>・裁判員の役割を簡単に説明。</p> <p>・裁判員制度への理解や想いを 深めて次時へつなげる。</p>	<p>全体</p> <p>小集団</p> <p>全体</p> <p>個人</p>

(4) 各時の授業過程

【第 1 時】

(1) 教材名 紛争を解決してみよう

(2) 本時の内容と目標

マスオさんとアナゴさんのけんかを解決する活動を通して、言い分の違う当事者同士を解決する過程や解決する難しさを体感する中で、法的な見方・考え方を身につけながら、これからの学習への関心を高めるとともに、民事裁判について理解する。

生徒の活動	支援及び留意点	
<p>(1) 仲が悪いマスオさんとアナゴさんに悩んでいるノリスケさんの話を聞いてみましょう。 ・「マスオ、アナゴ大けんか」を読む。</p> <p>(2) けんかの解決方法にはどのような方法があるでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">当事者同士の解決</p> <p style="text-align: center;">公平な第三者による解決</p> <p style="text-align: center;">裁判</p> <p>(3) マスオさんとアナゴさんのけんかはどのようなことが原因になっているでしょう。</p> <p style="text-align: center;">お互いの好き嫌い マスオさんの仕事の当番への普段の取組 チラシの取り合い マスオさんのスーツ</p> <p>(4) 2 人の関係を修復しましょう。</p> <p>1 . まず、3 人で話し合いのルールを決めよう。</p> <p>2 . マスオさん役、アナゴさん役、ノリスケさん役に別れ、ノリスケさん役は ~ までの点について、マスオさん役、アナゴさん役がどのように考えているか順番に言わせる。</p> <p>3 . ノリスケさん役は、マスオさん役、アナゴさん役にどうしたらけんかが解決するか言わせる。</p> <p>4 . ノリスケさん役は、マスオさん役、アナゴさん役が納得するような解決策を考えて伝える。納得しないようならば、納得できるように修正して伝える。</p> <p>(5) 話し合いの過程と結果を発表しよう。</p> <p>(6) 今日の授業の感想を追究紙に記入しましょう。</p>	<p>・ 紛争の説明をする。「マスオさんとアナゴさんのけんかに見られるような『人と人との間に起こる議論・意見・見解の違いによる争いのこと』を紛争といい、法に基づいて紛争を解決することを裁判・司法という」</p> <p>・ ~ のすべてが出ない場合は、教師が提示する。</p> <p>・ 6 人班でマスオさん役、アナゴさん役、ノリスケさん役それぞれ 2 人で分担する。</p> <p>・ それぞれの役割になりきり、主張をよく考えるように支援する。</p> <p>・ は解決できない場合は民事裁判が用意されていることを伝え、民事裁判の説明をする。</p>	<p>全体</p> <p>3 人組</p> <p>全体</p> <p>個人</p>

【第3時】

(1) 教材名 裁判員制度で国民が参加する裁判とは？

(2) 本時の内容と目標

事件カードを「裁判で解決できるもの」「裁判で解決できないもの」「どちらか決めかねるもの」に分類する活動を通して、法的な見方や考え方、民事裁判と刑事裁判、裁判員制度についての理解を深める。

(3) 授業過程

生徒の活動	支援及び留意点	
<p>(1) 事件カードの中で、裁判員裁判になるものを予想しよう。</p> <p>(2) 事件カードを「裁判で解決できるもの」と「裁判で解決できないもの」「どちらか決めかねるもの」に分類しよう。</p> <p>「裁判で解決できるもの」と予想されるもの</p> <p>A 人を殺してしまった C お金の貸し借り D 借金から逃れる為に E ストレス発散のために I 遺産争い J 酒酔い運転で</p> <p>・法を犯した犯罪行為だから、裁判で裁くべき。 ・これらは間違った解決をしてはならない重大な紛争で、より公正な解決をしなくてはならないから。</p> <p>「裁判で解決できないもの」と予想されるもの</p> <p>B セーフアウト G 嵐のファン H 見て見ぬふり</p> <p>・国家権力が立ち入るべきものではない。それぐらい自分たちで解決すべき。 ・細かなことまで裁かれすぎると、自由が無くなる。 ・裁くための法がない。</p> <p>「どちらか決めかねるもの」と予想されるもの</p> <p>F 隣の家のタケノコが</p> <p>・自分たちで解決することもできそうだが、解決できない場合は裁判で解決したらよい。</p> <p>(3) 「裁判で解決できるもの」は「民事裁判」と「刑事裁判」に分類されます。裁判の結果も見ながら、それぞれの裁判がどのような特徴を持つものか考えよう。</p>	<p>・自由に意見をあげさせる。</p> <p>・分類した理由を明確にさせる。</p> <p>・裁判による法の解決は私たちを助けてくれる反面、いきすぎると自分たちの生活をしばるものでもあるという認識も持たせたい。</p> <p>・前時の「裁判において大切なこと」に関わる意見も引き出したい。</p> <p>・刑事裁判で損害賠償など被害者へのお金の支払いが生じる場合は民事裁判も関係してくることを伝える。また、「J 酒酔い運転で」は行政責任を負うことも説明する。</p>	<p>全体</p> <p>小集団</p> <p>全体</p> <p>個人</p> <p>全体</p>
<p>< 民事裁判とは... ></p> <p>・個人と個人の紛争。</p> <p>・権利や利益に関するもめ事の解決を図る。</p> <p>・判決が出る前に和解や示談という選択肢もある。</p>	<p>< 刑事裁判とは... ></p> <p>・検察官（国家）が法を犯した被疑者を訴える。</p> <p>・犯罪行為について有罪、無罪を決定する。有罪の場合は、刑罰がくだる。</p>	
<p>(4) 裁判員制度で国民は刑事裁判に参加します。追究紙に裁判員制度への自分の考えや想いを記入しましょう。</p>	<p>・裁判員制度における裁判員の役割を説明する。</p> <p>・次回の模擬裁判のシナリオを配布する。</p>	<p>個人</p>

【第４・５時】

(１)教材名 模擬裁判員裁判

(２)本時の内容と目標

模擬裁判員裁判の中で，証拠の整理や他者との討論から，事象を多面的・多角的に考察し，総合して公正に判断した事実に基づいて自分の考えを適切に表現することができる。

(３)授業過程

生徒の活動	支援及び留意点	
<p>【第４時】</p> <p>(１)模擬裁判開始</p> <p><審理></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に選ばれ，練習をしてきた裁判官・検察官・弁護人・被告人・被害者の家族役の演者が進め，それ以外の生徒は裁判員役となる。 ・裁判員役は，事前に自分でシナリオに引いた有罪の証拠になると思われる赤線部分と，無罪（有罪とは言い切れない）証拠になると思われる青線部分を確認する。 ・模擬裁判終了後，裁判員役は個人で，有罪の証拠になると思われる事柄は赤の付箋紙に，無罪（有罪とは言い切れない）証拠になると思われる事柄は青の付箋紙に書き出す。 <p>(２)<評議></p> <ul style="list-style-type: none"> ・裁判員役は班をつくり，同じ種類の証拠をまとめると共に，「有罪の証拠になるもの」「無罪（有罪とは言い切れない）証拠になるもの」の順でランク付けして分類する。 ・証拠の二面性 証拠の重要度 刑事裁判の基本原則の３点に留意させ，評議を行う。 <p>(３)「ここまで裁判員裁判を体験して感じたこと」を追究紙に記入しましょう。</p> <p>【第５時】</p> <p>(４)<評決></p> <ul style="list-style-type: none"> ・評議で整理された証拠や自分の考えを元に，まずは個人で有罪または，無罪の判決を出す。 ・投票し，評決を行う。 <p>(５)班ごとに裁判の結果を発表する。</p> <p>(６)それぞれの立場の演者に，裁判中や判決が出た時の感想を聞く。</p> <p>(７)裁判員裁判を終えた今持っている，裁判員裁判に対する自分の見方・考え方を追究紙に記入しましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・法衣を着たり，席を法廷の形にしたりして，実際と同じ雰囲気をつくる。 ・裁判員が質問をする時間も設定する。 ・無罪推定の原則を伝える。 ・検察官，被害者の家族役はペアで有罪の証拠になると思われる部分を「有罪の証拠になるもの」「無罪（有罪とは言い切れない）証拠になるもの」でランキング。弁護人・被告人役は無罪（有罪とは言い切れない）証拠になるもの」「有罪の証拠になるもの」でランキング。裁判官役は，それぞれを見て回る。 ・ホワイトボードに評議の際にポイントになった点を整理して発表する。 	<p>全体</p> <p>個人</p> <p>小集団</p> <p>個人</p> <p>個人</p> <p>小集団</p> <p>全体</p> <p>個人</p>

【第6時】

(1) 教材名 裁判員制度

(2) 本時の内容と目標

裁判員制度への自分の見方・考え方を伝え合ったり、世の中の裁判員制度への見方・考え方を
 知ることを通して、裁判員制度への見方・考え方を深める。

(3) 授業過程

生徒の活動	支援及び留意点	
<p>(1) 裁判員制度への見方・考え方を伝え合おう。</p> <p>(2) 静岡県で行われた2つの裁判員裁判の様子を見てみよう。</p> <p>審理された事件のあらまし</p> <p>〔静岡地裁沼津支部〕 「富士市内の駐車場で6月に主婦の現金を奪った上、けがをさせたとして強盗傷害罪で逮捕された」</p> <p>〔静岡地裁浜松支部〕 「磐田市内の自宅で6月、交際していた女性を殺害したとして殺人罪で逮捕された」</p> <p>裁判員裁判の主な争点と判決理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画性の有無について ・反省の有無について ・求刑、判決 ・求刑理由、量刑理由 <p>についての検察側、弁護側の主張と判決</p> <p>裁判員を経験した人たちの声</p> <ul style="list-style-type: none"> ・裁判を終えた心境について ・検察、弁護側の審理の進め方の印象について ・評議で自分の意見は述べられたかについて ・被告人への思いについて ・守秘義務についての是非について ・裁判員を体験して感じたことについて など <p>(3) 裁判員裁判への見方・考え方を追究紙にまとめましょう。</p>	<p>・地裁沼津支部と地裁浜松支部での裁判員裁判をまとめたプリントを配布する。</p>	<p>小集団</p> <p>全体</p> <p>個人</p>

紛争...マスオさんとアナゴさんのけんかに見られるような「人と人との間に起こる議論・意見・見解の違いによる争い」のこと。法に基づいて紛争を解決することを裁判または司法という。

3人で決めた話し合いのルール

--

自分の役割

マスオさん

アナゴさん

ノリスケさん

それぞれの主張

	マスオさんの主張	アナゴさんの主張
お互いの好き嫌いについて		
仕事の当番への普段の取組について		
チラシの取り合いについて		
マスオさんのスーツについて		

それぞれの解決策

マスオさんの解決策	アナゴさんの解決策

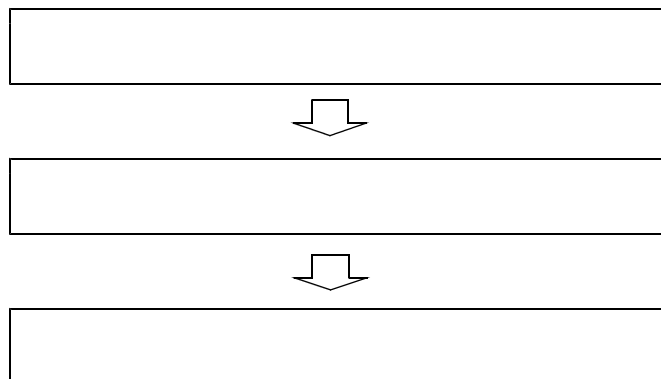
2人の解決策を聞いて、ノリスケさんが考えた解決策

--

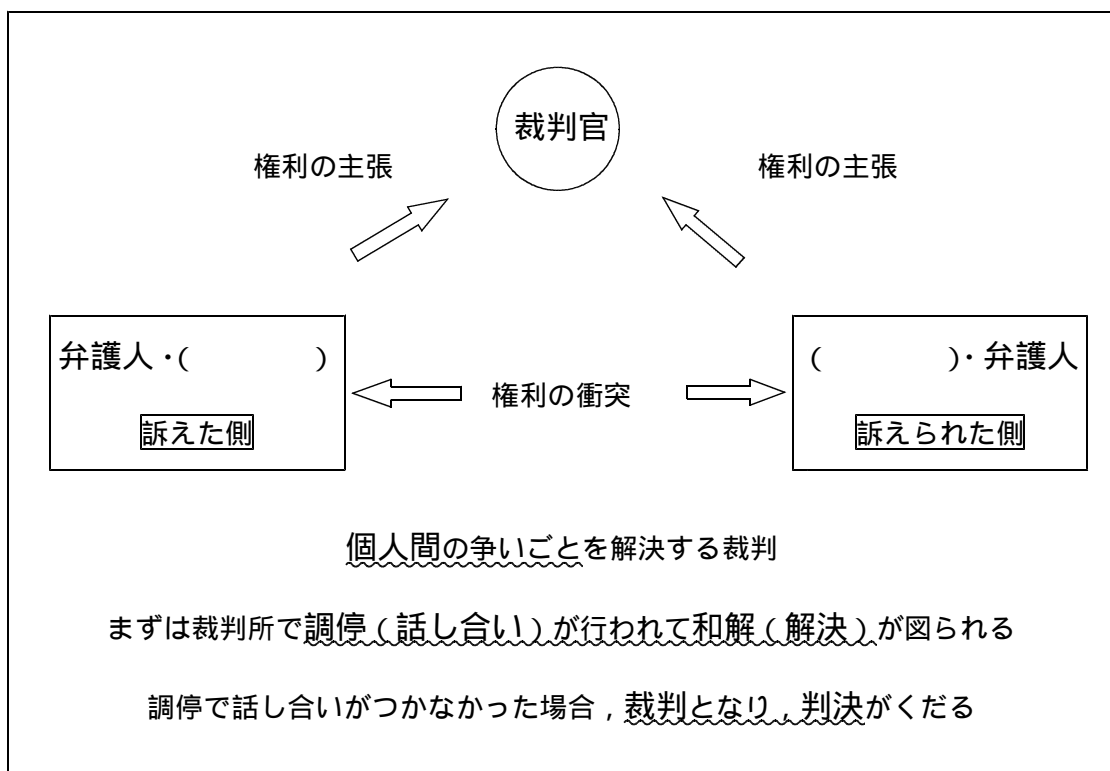
解決策を修正したものは裏面へ

修正された解決策

紛争解決の流れ



民事裁判とは



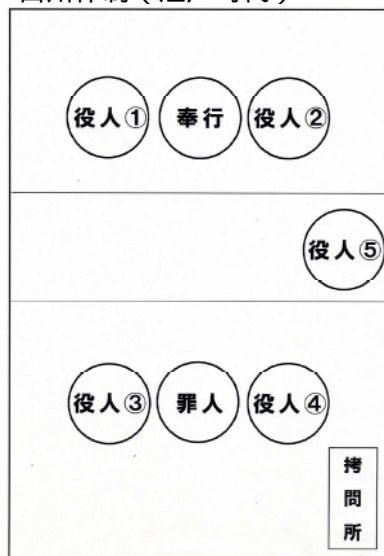
(/)

2. 裁判の変化と概念

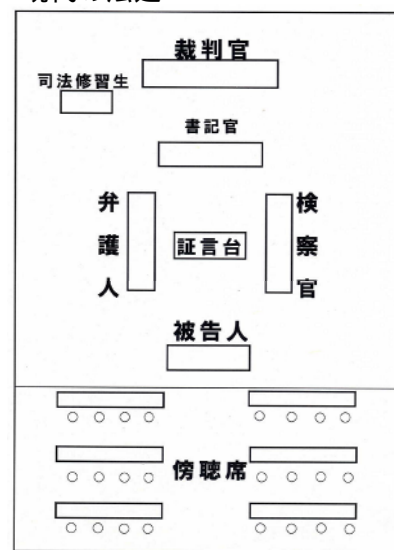
3年 組 番 氏名

1. 法廷図の変化

白州体制（江戸時代）



現代の法廷



〔変化したもの〕

弁護人 裁判官の役割 裁判官の人数 証言台 傍聴席 書記官
 司法修習生 検察官 被告人 拷問所廃止 砂利廃止

課題

「裁判において重要だと考える順」にランキングしてみよう。

ランキング

理由

課題

〔裁判で解決できるもの〕〔裁判で解決できないもの〕〔どちらか決めかねるもの〕
に分類しよう。

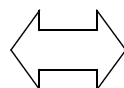
〔裁判で解決できるもの〕	【その理由】

〔裁判で解決できないもの〕	【その理由】

〔どちらかに決めかねるもの〕	【その理由】

< 民事裁判 >

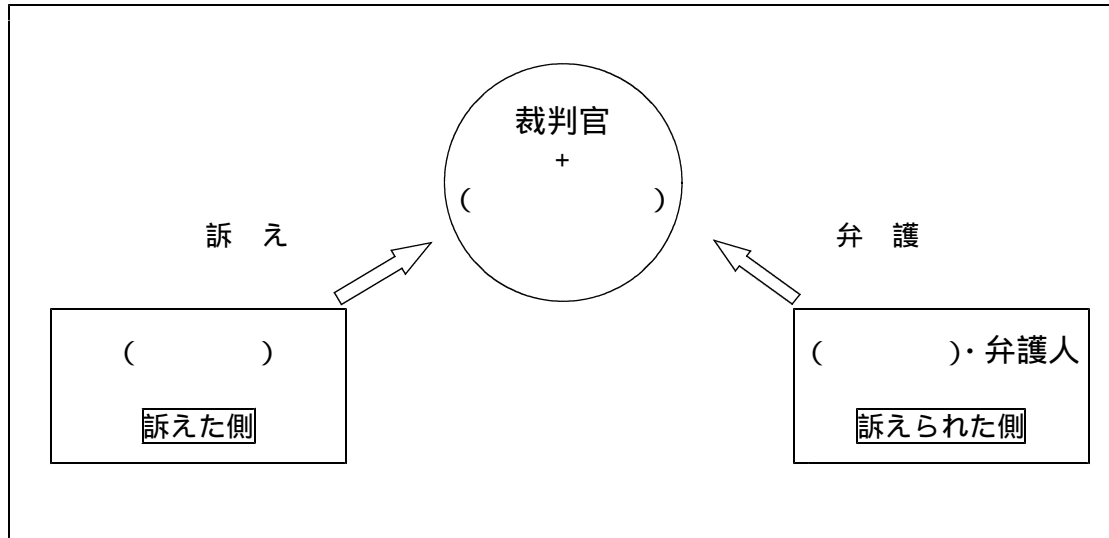
個人と個人の紛争
権利や利益に関するもめ事の解決を図る
和解や示談という選択肢もある



< 刑事裁判 >

--

刑事裁判



第3章 現代の民主政治と社会 2 国の政治のしくみ

(/)

4. 模擬裁判員裁判

3年 組 番 氏名

1. 有罪の証拠になる証拠になると思われる部分に赤、無罪（有罪とは言い切れない）の証拠になると思われる部分は青でラインを引きましょう。

場面1 開廷・人定質問

裁判長： それでは、被告人中島学（まかじままなぶ）に対する強盗致傷被告事件の審理を始めます。

名前はなんと言いますか？

被告人： 中島学です。

裁判長： 生年月日は。

被告人： 昭和60年5月28日です。

裁判長： 仕事は何かしていませんか。

被告人： 何もしていません。

裁判長： 本籍はどこですか。

被告人： 東京都ひわたり市大林1丁目2番です。

裁判長： 住所は。

被告人： 東京都ひわたり市大林1丁目2番3号です。

場面2 起訴状朗読

裁判長： 検察官、起訴状を読んでください。

検察官： 公訴（こうそ）事実。被告人は、平成18年6月30日午後8時ころ、東京都小石川区（こいしかわく）辻1丁目付近の道路上で、歩いていた波野フネ、当時78歳、の背中を後ろから突き飛ばして道路に転倒させ、抵抗できないでいる波野から、現金5万5千円入りの封筒が入った巾着袋ごと奪い取り、この時の暴力で、波野に、2週間の治療が必要となる右膝打撲などの怪我を負わせた。

罪名及び罰条。強盗致傷、刑法第240条前段。

場面3 黙秘権の告知、被告人・弁護人の陳述

裁判長： ここで、被告人に注意しておくことがあります。

被告人には、黙秘権という権利があります。答えたくない質問には答えなくてもかまいません。最初から最後まで、ずっと黙っていることもできます。

質問に答えてもかまいませんが、話をしたことは有利な証拠にも、不利な証拠にもなります。

そこで、質問しますが、先ほど検察官が読み上げた起訴状の内容は、その通り間違いないですか。

被告人： 全然違います。私は、おばあさんを突き飛ばしてお金の入った巾着袋を奪ってなどいません。

裁判長： 弁護人の意見はいかがですか。

弁護人： 被告人が述べたとおりです。被告人は犯人ではなく、無罪です。

場面4 冒頭陳述

裁判長： 検察官、冒頭陳述（ぼうとうちんじゅつ）をお願いします。

検察官： 被告人は、独身で、高校卒業後、決まった職に就くことなく、同居している両親から小遣いをもらって遊んで生活していました。被告人の中島フネさんは、家賃を払うため、歩いて5分くらいの距離にある大家さんの花沢さんの家に向かう途中、被害にあいました。

家賃の5万5千円は、前日の夜、フネさんの息子のカツオさんが、1万円札4枚と5千円札3枚を封筒に入れて準備していました。

フネさんは、家賃入りの封筒を自分の巾着袋に入れ、午後8時頃自宅を出て、花沢さんの家に向かいましたが、自宅を出て2、3分したところで、いきなり後ろから突き飛ばされ、うつぶせに倒されてしまいました。そして、後ろから走ってきた白っぽい長袖Tシャツを着た若い男が、よねさんの手から巾着袋を奪い取り、走って逃げ去りました。

近くを通りがかった人が倒れているフネさんを見つけ、すぐに110番通報しました。警察官と救急車が到着し、フネさんは、救急車で病院に運ばれ、2週間の治療を必要とする右膝打撲と診断されました。

警察が犯人を探したところ、事件のおよそ20分後、事件現場から直線距離で2キロメートルくらい離れたところで、白っぽい長袖Tシャツを着た被告人を見つけました。検察官が被告人に質問したところ、被告人は、ズボンの左ポケットに自分の財布、右ポケットに1万円札4枚と5千円札3枚を裸で持っていることが分かりました。警察官は、被告人がフネさんから巾着袋を奪った犯人であると判断し、その場で被告人を逮捕しました。

なお、フネさんの巾着袋と封筒は、逮捕の場所から事件現場の方へ500メートルほど戻った道端に一緒に落ちていたところを、警察官が見つけ、保管しました。

裁判長： 弁護人、冒頭陳述をどうぞ。

弁護人： 被告人は、事件当日の昼過ぎ、友達に会うため、電車を乗り継いで、事件があった現場の近くまで行きました。以前、その友達から、仕事を紹介してもらえるような話を聞いていたので、頼んでみようと思ったのです。しかし、友達の家には前に一度だけしか行ったことがなく、場所が分かりませんでした。被告人は、かなりの時間、友達の家を探しましたが、結局、友達の家を訪ねることができませんでした。被告人は、歩き回って疲れたことから、近くの公園で休んだり、本屋で立ち読みをしたりして、時間をつぶしていました。

そのうち暗くなったので、被告人は、家に帰ろうと駅に向かって歩いていたら、いきなり警察官に呼び止められました。ポケットの中のものを出すように警察官から強く言われ、びっくりした被告人は、言われたとおりにしました。すると、警察官は、被告人がポケットから出した現金5万5千円は、おばあさんからひったくったものだと言ったのです。被告人は、何度も違うと言いましたが、警察官から、お札の種類が同じだと言われ、結局、被告人は、犯人だと決めつけられ、逮捕されてしまいました。

このとき被告人が持っていた5万5千円は、その2日ほど前に、友人に貸していた7万円を返してもらったものの残りでした。被告人は、逮捕されて後も、そのことを何度も話しましたが、警察官は、話を聞いてくれませんでした。

また、警察官が見つけて保管した巾着袋の封筒には、被告人の指紋は一切付いていませんでした。しかし、被告人は、釈放されることもなく、犯人に間違えられたまま裁判所に起訴されてしまったのです。

場面5 証拠の取り調べ

この場面では、検察官からの証拠請求と、これに対する弁護人の意見が出され、同意された証拠の取り調べと、尋問される証人についての採用決定が出されていることを前提とする。

また、検察官から提出されている証拠物のうち封筒と巾着袋の発見場所、被告人の職務質問場所・時間についても争いがないことを前提とする。

裁判長： 検察官は証拠について説明してください。

検察官： まず、1番目の証拠は、被害者の磯野フネさんが警察に出した被害届、2番目の証拠はフネさんの供述調書（きょうじゅつちょうしょ）であり、事件前日、息子のカツオさんが封筒の中に現金を入れて、家賃を準備した際、カツオさんは、フネさんが現金を落とさないよう、封筒の口をホッチキスで留めておいたこと、事件当日、フネさんは、夜になって家賃を持っていくことを思い出し急いで家を出たこと、後ろから突き飛ばされたときは、いきなりだったので犯人の顔は見なかったが、逃げていく犯人の後ろ姿を見て白っぽい長袖Tシャツを着た若い男だと分かったことなどの内容となっています。

3番目は、保管した封筒と巾着袋についての報告書で、保管した封筒の口にはホッチキ

スの針が残されていました。

4 番目は、被告人が持っていた 1 万円の報告書で、うち 1 枚には、福沢諭吉の絵の左肩あたりに、いったんホッチキス留めた後にそれをはずしたような穴が 2 つあいていました。

5 番目は、保管した封筒に残されていたホッチキスの針と、被告人から押収した 1 万円札のうち 1 枚に残されていたホッチキスの穴とが、その幅、大きさ、位置関係とも全く同じであるという報告書です。

6 番目は、証拠物で 1 万円札 4 枚と 5 千円札 3 枚、封筒 1 枚です。

それでは、1 万円札 4 枚と 5 千円札 3 枚を被告人に示します。

まず、1 万円札と 5 千円札ですが、すべて、逮捕されたときに被告人が持っていたものですが、誰のものですか。

被告人： 私のものです。

裁判長： それでは、次に、磯野カツオ（いそのかつお）さんから、証人として話を聞きます。

磯野カツオさんには嘘を言わないという宣誓をしてもらいます。宣誓書を読み上げてください。

カツオ： 良心に従って真実を述べ、何ごとも隠さず、偽りを述べないことを誓います。

裁判長： いま宣誓してもらったとおり、質問には記憶のとおり答えて下さい。わざと嘘を言うと、「偽証罪（ぎしょうざい）」という罪で処罰されることがあります。では、検察官どうぞ。

検察官： フネさんが大家さんに渡す家賃を準備したのは、あなたですね。

カツオ： はい。

検察官： 封筒の口をホッチキスで留めたのは、なぜですか。

カツオ： 母は、だいたい年をとっていて、以前、家賃を持っていくときに、現金が入った封筒だけを手に持って出て、途中で中の現金を落としてしまったことがありました。それからは、私も、必ず巾着袋に入れて持っていくよう母に注意していたのですが、注意を守らずに封筒だけ持っていても、中身を落とさないよう、ホッチキス留めをしておきました。

検察官： 現金は、どの種類のお札で準備しましたか。

カツオ： 1 万円札 4 枚と 5 千円札 3 枚です。

検察官： どうしてですか。

カツオ： 家賃は月末までに払わねばならず、前日の夜に私が思い出して、あわてて準備したのです。でも、家にあるお金は、1 万円札が 4 枚と 5 千円札が 1 枚だけでした。それで、母のへそくりから 5 千円札 1 枚を出してもらいました。私も自分の財布から 5 千円札 1 枚を出して、全部で 5 万 5 千円にしたのです。

検察官： 今、フネさんは、どんな様子ですか。

カツオ： 診断書では 2 週間の怪我でしたが、年をとっているのです、怪我がもとで歩くのが不自由になってしまいました。

検察官： 犯人に言いたいことはありますか。

カツオ： 私が中学生のころ父が亡くなってから、母は、一生懸命働いて私を育ててくれました。「色んな人に親切にしてもらって、今の幸せがある」というのが母の口癖でした。でも、事件の後、母は、ほとんど外に出なくなり、口数も減りました。時々、父の写真の前で何かを話して、泣いていることもあります。晩年になって、こんなひどい目にあわなければならなかった母のことが、かわいそうでなりません。犯人のことは厳しく処罰してください。

検察官： 終わります。

裁判長： 次に弁護士どうぞ。

弁護士： 家賃は、普段、誰が準備していましたか。

カツオ： 私が準備していました。

弁護士： 渡すお札の種類は、いつも決まっていたか。

カツオ： 1 万円札 5 枚と 5 千円札 1 枚のことが多かったと思いますが、千円札が混じることもありました。

弁護士： 毎月毎月家賃を払っていますが、過去の何月何日にお札の組み合わせがどうだったか、1 つ 1 つ言えますか。

カツオ： ……そこまでは、覚えていません。

弁護士： 今回事件の前日に準備したときの組み合わせが 1 万円札 4 枚、5 千円札 3 枚と話していますが、本当に覚えているんですか。

カツオ： 覚えています。
弁護人： 過去の記憶はあやふやなのに、本当に自信を持って言えるんですか。
カツオ： 古いことは忘れてしまいましたが、まだ事件から日にちが経っていないので、よく覚えています。
弁護人： 終わります。
裁判長： それでは終わりました。検察官は残りの証拠について説明してください。
検察官： 残りは、警察官が被告人から聞いた話の内容が書かれた供述調書です。被告人の経歴、弁解内容などについて書かれています。

場面 6 被告人質問

裁判長： では、被告人質問を行います。弁護人、どうぞ。
弁護人： あなたは、おばあさんから引ったくりをしてはいないんですね。
被告人： はい。全く身に覚えがありません。
弁護人： その日、あなたは、友達にどんな用事があったんですか。
被告人： 仕事を紹介してもらうつもりでした。その友達が以前仕事を紹介できる、と話していたんです。
弁護人： 友達の家の場所は、分かっていましたか。
被告人： 一度その友達に連れられ、遊びに行ったことがあるんで、分かると思いましたが、今回 1 人で行こうとしたら、分からなくなりました。
弁護人： せっかく外出したんで、すぐには帰らなかったんですね。
被告人： はい。ほかに用事ありませんでしたから。
弁護人： 警察官からは、どんなふうに声をかけられたんですか。
被告人： 制服のおまわりさんが 2 人走ってきて、一方的に、「おたく、どこに行くの。」「何で声をかけられたか、分かるよね。」などと言ってきました。
弁護人： 持ち物は、見せたんですか。
被告人： はい。「ちょっとポケットのものを見せて。」と言われたんで見せました。
弁護人： ズボンの右ポケットに裸で 5 万 5 千円持っていたのは、なぜですか。
被告人： 2 日ほど前に、友達に貸していた 7 万円を返してもらいました。その中から、1 万 5 千円だけ自分の財布に移して、残りは家に置いておくつもりだったのですが、ズボンのポケットに入れたまま忘れてしまっており、逮捕された日は、たまたまそのズボンをはいていたんです。
弁護人： 終わります。
裁判長： それでは、検察官どうぞ。
検察官： あなたが訪ねようとした友達の名前は、なんといいいますか。
被告人： 分かりません。
検察官： 友達だというのに名前も知らないんですか。
被告人： よく行ってるゲームセンターに時々来ているので、そこに行けば会えますから名前を知らなくても、問題ありません。
検察官： 友達の家に行こうとして、駅の改札口を出たのは、何時ごろですか。
被告人： 午後 2 時ごろだったと思います。
検察官： 警察官に声をかけられるまでの約 6 時間の間、何をしていたんですか。
被告人： 2 時間くらいは、友達の家を探していたと思います。その後、公園のベンチで寝たり、本屋で立ち読みをしたりして、ぶらぶらしていました。
検察官： 夕飯は、どこかで食べました。
被告人： 食べていません。
検察官： 夜の 8 時までの 6 時間、あの辺りにいなければならない理由があったのですか。
被告人： 特に理由はないです。ぶらぶらしていただけです。
検察官： 被告人が 7 万円を貸したという友達の名前は、何といいいますか。
被告人： 知りません。
検察官： 名前も知らない相手に 7 万円も貸したんですか。
被告人： 貸しました。

検察官： 名前も知らないで、どうやって返してもらったんですか。
被告人： 親友のそのまた友達なんです。その親友は信頼できるやつで、その友達ということだから、金を貸したんです。
検察官： じゃあ、その信用できるという親友の名前は、何といいますか。
被告人： ……言いたくありません。
検察官： どうして言いたくないんですか。
被告人： 迷惑がかかるからです。
検察官： では、7万円をいつどこで、どのような状況で返してもらったのですか。
被告人： 捕まる2日前でしたが、詳しいことはもう覚えていません。
検察官： 被告人は仕事もしていないのに、どうして7万円も持っていたんですか。
被告人： 仕事はしてませんが、小遣いをもらってましたし、貯金もありました。
検察官： 証拠物の1万円札1枚を被告人に示します。
この1万円札は、被告人が逮捕されたときに持っていたものですが、端に穴が2つあいています。これは、いつあいたものか、分かりますか。
被告人： 分かりません。気づきませんでした。
検察官： 証拠物の封筒1通を被告人に示します。
この封筒の口には、ホッチキスが付いたままになっています。先ほどの1万円札にも同じ大きさのホッチキスの穴があいていました。1万円札が入っていた封筒の口をホッチキスで留めたときに、1万円札も一緒に穴をあけてしまった、ということではないですか。
被告人： それは、私には分かりません。
検察官： 終わります。

裁判長： 裁判員のみなさん、何か質問はありませんか。

これで終わりです。

2．評議に入りましょう。

3．判決を考えよう。(評決)

私は 有罪 無罪 だと思います。

【理由】